

SHOW HEY シネマール

★★★

暗殺のオペラ デジタル・リマスター版

1970年(2018年) / イタリア映画
配給: コピアポア・フィルム / 99分

2018(平成30)年 9月7日鑑賞

テアトル梅田

Data

監督: ベルナルド・ベルトルッチ
原作: ホルヘ・ルイス・ボルヘス<伝奇集>より「裏切り者と英雄のテーマ」による(岩波文庫刊)
出演: ジュリオ・ブロージ/アリダ・ヴァリ/ティノ・スコッティ/ピッポ・カンパニーニ/フランコ・ジョヴァネッリ/アレン・ミジェット

■ ■ ショートコメント ■ ■

◆イタリアの巨匠ベルナルド・ベルトルッチ監督の1970年の名作で、1971年ヴェネチア国際映画祭でルイス・ブニユエル賞を受賞した本作が、なぜか今デジタル・リマスター版として上映。本作は、「現代ラテン・アメリカ文学の鬼才ホルヘ・ルイス・ボルヘスの伝奇集“裏切り者と英雄のテーマ”から着想を得た監督が、小説の舞台アイルランドを北イタリアの架空の町に置き換え大胆に脚色し、公開当時誰も成しえなかったボルヘスの世界を映像化した歴史的な作品」だそうだから、楽しみだ。チラシには「レジスタンスの指導者だった父を殺したのは誰だ?」「死の謎を追う息子がやがて知る驚愕の真実!」という刺激的な文字が躍っているが、さてその出来は?

◆本作は北イタリアの“タラ”という小さな町の駅に降り立つ主人公アトス(ジュリオ・ブロージ)の姿から始まる。彼は、レジスタンスの闘士として活躍し、ファシストの手によって殺された父親の犯人をつきとめて欲しいという、父の愛人ドライファ(アリダ・ヴァリ)の依頼でこの町にやってきました。アトスに協力するのは、父親の同志だったレジスタンスの3人だが、ハッキリ言って本作中盤のアトスによる真相解明のストーリーはわかりづらい。

◆また、本作は『暗殺のオペラ』と題されているだけあって、真相解明の過程の中でヴェルディのオペラ“リゴレット”がふんだんに使われているからそれに注目!さらに、シェイクスピアの“マクベス”等からの引用も随所にあるが、その手の知識が不足している日本人にはそれもちょっと理解しづらいところがある。

◆しかし、ラスト近くになって父親殺しの犯人がファシストではなかったらしいことがわ

かってくると、がぜん「レジスタンスの指導者だった父を殺したのは誰だ?」「死の謎を追う息子がやがて知る驚愕の真実!」という本作のテーマが鮮明になってくる。しかして、アトスが知ることになる、驚愕の真実とは・・・?

約50年前の映画ながら見応えは十分だ。1970年当時見逃していた名作に今出会えたことに感謝!

2018 (平成30) 年9月11日記